

D2 (初瀬)

【 のみのすくね 野見宿禰の意向を今に伝える土人形 】

～ 出雲人形 ～



約二千年前の第11代すいにん垂仁天皇の時代に皇后ひばすひめのみこと日葉酢媛命が薨去された際に、殉死の風習を改めようとされた天皇が、のみのすくね野見宿禰の「土の人馬や種種の形を造りこれに変えられては」との意見を取り上げられました。これを受けて野見宿禰は出雲の国より土部 100 人を呼び寄せ、土師連として現在の桜井市出雲に住み、土偶制作にあたったと伝えられています。これが後の埴輪であり、伝統的に長谷詣りの土産物として伝統的に出雲人形は親しまれてきました。昔から伝わる技術を活かして現在も桜井市出雲にて製作されています。この素朴で昔をしのぼせる人形は、その源は埴輪までさかのぼることのできる非常に誇り高い郷土民芸品です。(桜井市 出雲)